

こども家庭庁 E B P M 研究会

# 法務省における EBPM推進に向けた取組

令和5年9月12日  
法務省大臣官房秘書課

**EBPM** (Evidence-Based Policy Making : 証拠に基づく政策立案)

= 政策がもたらす影響をデータに基づいて分析し、**政策の立案や改善を行うという  
当たり前のこと**

当たり前の E B P M が、**特別なもの**になっている現実

- 「E B P M の第一歩 : **ロジックモデル**」の作成を推進し続けた結果、**作業化**。
- 既に導入されている評価 (政策の改善に向けた) 作業との重複・負担感が発生

政策評価	=	毎年・全ての政策を対象に評価
行政事業レビュー	=	毎年・全ての事業を対象に評価
ロジックモデル	=	全ての新規・拡充事業を対象に作成

メリットがない。  
負担ばかりだ。



いつの間にか E B P M = ロジックモデルを作ることになってしまっている ?

# E B P Mを当たり前ものにするために行ったこと

## 1 E B P Mの要素を整理

① 目的・現状・課題・手段等の  
政策の枠組みを整理すること

② エビデンスベースであること

## 2 対象とする担当者を想定

政策立案・評価に携わる担当者  
…**当たり前に取り組んでほしい**

目の前の課題への  
対応だけで精一杯

調査設計・データ分析等ができる人材  
…そのような職員はほとんどいない

(差の差の分析…さのさん?)

3 当たり前に (**自然に・負担感なく**)  
できる仕組み (仕掛け)

・既存の様式や評価プロセスの見直し  
…既存の制度・業務の実情×E B P M  
・サポート制度



4 E B P Mを先に進める試み

・外部専門家の受入れ  
…E B P Mアドバイザー (非常勤)  
・職員育成プログラム



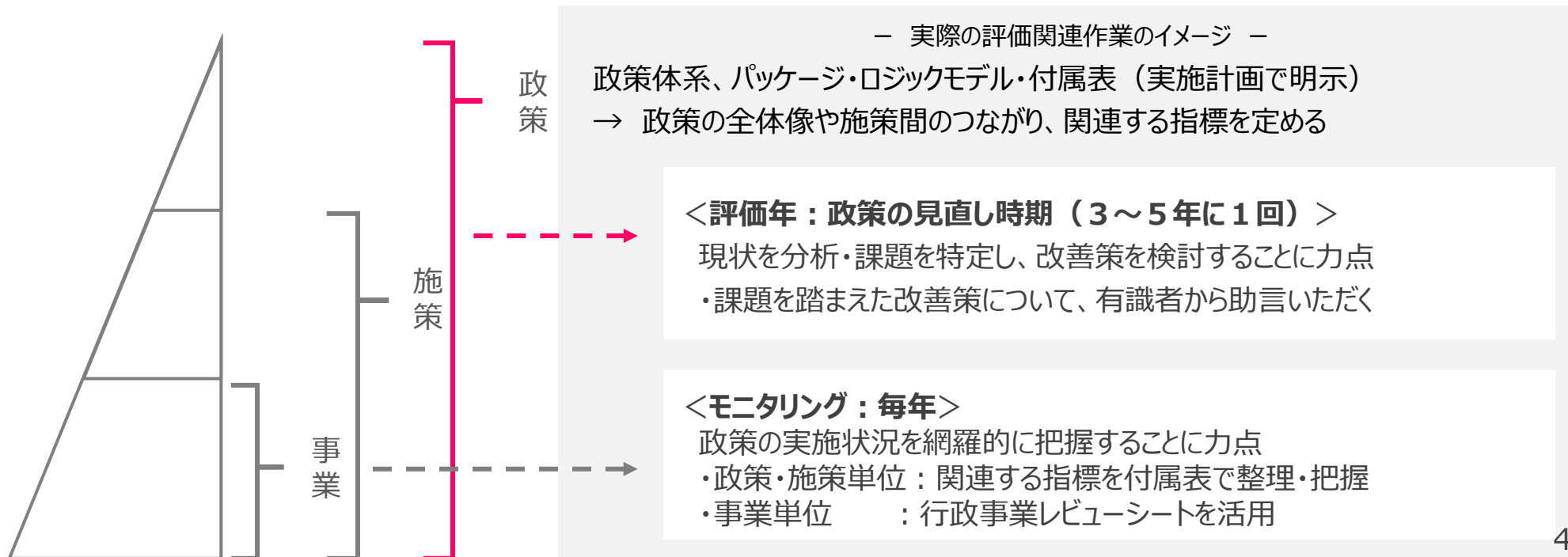
# E B P Mを当たり前（自然に・負担感なく）できる仕組み②

## 政策評価の自由化（省内担当者や有識者との1年間の議論を経て、政策評価基本計画を見直し）

- **政策評価はE B P Mの絶好の機会**。政策担当部局が、政策の**改善につなげやすい時期**に、政策の特性に応じた**方法・単位を選択**して評価を実施できるように自由化。
- 政策の全体像を共有するため、政策体系に加えて、**政策パッケージとロジックモデル**を作成。

- ・ほとんどの政策は、総合評価方式を活用して実施。
- ・〇〇基本計画など、審議会等でフォローアップされ、実質的に政策評価と同等の評価が行われていると認められるものは、その成果物を政策評価書として扱う。

- 毎年の**モニタリングは、行政事業レビューシート等を活用**し、評価年に行う評価作業と区別する。



# E B P Mを当たり前（自然に・負担感なく）できる仕組み③

## 政策立案応援制度（担当者の悩みを解消することで、新しい様式や評価の仕組みを浸透させる）

### 政策立案応援制度

昨年度は

**40**事業をサポート

政策立案の過程で生まれる様々な**悩みの解消**をサポートする仕組み

#### 壁打ち支援

1時間以内／1回

私たちがよろしければ  
思考の整理を助ける「壁打ち」の相手になります

- ・形になっていないアイデアの深掘りをしたい方
- ・目的、手段のつながりを整理したい方など



#### 資料作成サポート

30分+1日／1枚

作りたい資料の概要を伺い  
政策設計図やポンチ絵づくりをお手伝いします

- ・政策設計図やポンチ絵作りにお悩みの方
- ・行政事業レビューシートの作成にお悩みの方
- ・ロジックモデルを勉強したい方



新

#### E B P Mアドバイザー（非常勤職員）

民間のコンサルタントが  
ロジックの整理、データ分析・効果検証を実施  
サポートします

- ・効果検証の方法について知りたい方
- ・事業の効果検証をしようとしている方

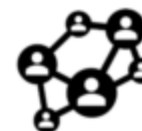


#### 専門家マッチング

1時間以内／1回

計量経済学や統計学の専門家や他省庁の効果検証  
チームを紹介します

- ・効果検証等を行う予算がない方
- ・他省庁の取組を知りたい方



政策評価係（内線：2887）まで

① 目的・現状・課題・手段等の政策の枠組みを整理すること → ある程度浸透

①と②の間には高いハードルが存在・・・応援制度を活用する部局・職員にも偏り

● データ分析を実践する機会・経験が不足している

→ 「データ分析で何が出来るのか / 分かるのか」

「EBPMの取組を進めるためには何が必要なのか（調査設計、データ、分析環境等）」  
がイメージできない。

→ データ分析に関する悩みが起こらない（困っていない）

→ 自ら実践したり、専門家に相談するなどの行動が起こらない（起こせない）。

② エビデンスベースであること

# E B P Mを先に進めるための新しい試み①

## 地方自治体の実践例と法務行政への適用イメージの提示

地方自治体では、様々な分野で色々な手法を用いたデータ利活用が進められているため、その事例を収集・整理して、法務行政にも適用できる考え方・分析手法と一緒に提示。

地方公共団体	テーマ	主な分析手法	法務行政における適用イメージ（例）
大阪府 寝屋川市	「元の生活を取り戻す」 ～訪問指導・短期集中通所 サービスを中心とした取組～	ランダム化 比較試験	✓ <b>矯正・保護</b> ：再犯防止プログラムの効果検証におけるランダム化比較試験の適用（ランダム割り当てが難しければ傾向スコアマッチングの適用等）
神奈川県 葉山町	葉山町きれいな資源 ステーション協働プロジェクト		✓ <b>矯正・保護</b> ：ナッジの活用による職業訓練の受講促進、ランダム化比較試験によるナッジ効果の検証
岡山県	HACCPに沿った衛生管理計画作成会への参加を促すナッジの効果検証		✓ <b>民事</b> ：ナッジの活用による相続登記の行動促進、ランダム化比較試験によるナッジ効果の検証
富山県 小矢部市	都市政策への市民満足度が シビックプライドに与える影響	共分散 構造分析	✓ <b>矯正・保護</b> ：受刑者や刑務所職員等の動機付け・モラル等に影響を及ぼす要因、動機付け・モラル向上による効果の分析
佐賀県 佐賀市	介護予防DX～データを活用した介護予防推進事業～	観察研究	✓ <b>入管</b> ：在留外国人の各属性情報を用いた事後的な支援ニーズの分析、それに基づく事前のニーズ予測
- (全国)	農業・農村政策における 差の差分析の適用	差分の 差分法	✓ <b>人権擁護</b> ：人権啓発活動の効果検証における地域間での差分の差分法の適用



## EBPMを先に進めるための新しい試み②

### 各組織においてデータ利活用の核となる人材育成プログラム：EBPMブートキャンプ

今年9月から実施。各局部課等から参加者を募り、組織単位でチームを構成。

**EBPMアドバイザーの支援**を受けながら、チームごとに自らテーマを設定し、課題設定からデータ分析までのプロセスを**試行錯誤的に実践する機会**を設ける。

項目	内容
目的	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 自身の業務に関連する行政課題を題材として、<b>EBPMの一連の流れを体験・実践する場</b>を設け、<b>職員の実践力向上</b>に資する取り組みとする</li><li>✓ 併せて、データ分析実践に伴う内外からのデータ収集や各種統計ソフトウェア（R, Python, SPSS, Excelソルバー等）利用を通じて、今後の省内における<b>EBPMの取組推進に向けた環境づくり</b>の一助に</li><li>✓ 幹部層にも実践内容について評価していただき、分析結果の報告を受ける幹部のリテラシーも高める</li></ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ <b>EBPM講義</b>：1回（90分）。令和5年度EBPM研修として実施</li><li>✓ <b>キックオフ</b>：1回（2時間）</li><li>✓ <b>全体会</b>：各チームが集まり、進捗等を共有。6回程度（1回2時間程度）</li><li>✓ <b>チームでの作業</b>：適宜開催</li><li>✓ <b>幹部報告会</b>：中間報告（11月頃） / 最終報告（2月）の2回</li></ul>
期間	✓ <b>2023年9月頃～2024年2月頃</b>
対象者	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 局部課等の参加希望者</li><li>✓ 局部課等ごとにチームを編成。<b>3チーム前後</b>、1チーム<b>5名程度</b>を想定。</li></ul>

法務省 EBPMアドバイザー

田原 英典

## ■ 経歴

- 大学院修了後に民間シンクタンクで勤務。今年5月からEBPMアドバイザーとして勤務。
- これまで統計データの利活用やEBPMの実装支援・効果検証等に従事

## ■ 現在の主な業務

- ロジックモデル作成等の助言
- 行政データの利活用支援（助言、ダッシュボード作成、統計分析等）

## ■ 今後の法務省のEBPMについて（私感）

- 矯正局では、現場の専門官による「問題発見」→「仮説検証」→「報告」が行われている。既存の現場の取組を本省のEBPMと連動させたい。
- 他方、定量的な効果検証が適さない事業も多い。定性的な調査手法等で代替や現状認識・課題発見ができればと考えている。